



包装4団体によるテクニカルセミナーの開催

本年度はTOKYO PACK 2024が開催されますが、包装関連4団体で包装実務者に必要不可欠なトピックスを紹介する「テクニカルセミナー」を実施することになりました。新人～中堅層の来場者をターゲットとし、本ステージを学びの場として活用いただくようプログラムされております。16セッション全てのセミナーが無料にて聴講できます。日本包装専士会の4セッションについて紹介させていただきます。

日本包装専士会のテクニカルセミナーの紹介

【1】 松井幸一郎講師（オハヨー乳業） 10月23日12:25～13:10

「オハヨー乳業の包装視点遍歴と新たな挑戦」：

創業70年になるオハヨー乳業株式会社は、岡山を拠点に乳を通じてこれまで多く製品を生み出してきた。その活動の中で代表的な包装テーマを3つご紹介と個人の新たな挑戦についてご紹介したい。

- 1.『瓶牛乳（学校給食・宅配）：牛乳瓶の歴史とこれからの在り方』
- 2.『焼プリン：オープン焼成に耐えうる容器開発』
- 3.『ロイテリ：乳酸菌を守るバリア容器の開発』
- 4.『食品包装から衣料へ素材領域を超える挑戦 AREA（エリア）』

【2】 石塚義夫講師（石塚包装設計・開発事務所） 10月24日10:15～11:00

「貨物試験Z0200の変遷について

～改正ポイントと問題点及び各試験（振動、落下、圧縮）間についての類似性」：

JIS Z 0200の包装貨物試験は1973年に制定された。その後7度改正され、2023年版となった。ASTM D4169を参考にし、ISO 4180との整合性の方向で見直し、改正されてきた。

- （1）各改正時のポイント及び他規格との比較の説明
- （2）問題点 ①ランダム振動試験のエンベロープカーブの出典の不明瞭さ
②圧縮試験時の負荷係数と段ボール箱の安全率との混同、誤解 の説明
- （3）各試験（振動、落下、圧縮試験）間の類似性についての説明を試みる。

【3】 佐藤久朗講師（三菱商事パッケージング） 10月24日12:25～13:10

「コンビニ中食容器包装の環境対応」：

コンビニ市場拡大の軌跡にあって、使用される容器、包装は環境対応においていかなる進化を遂げてきたのか。長年にわたりコンビニ中食市場を見つめ続けた講師が、豊富なデータ、写真、容器の実物等を用いながら、コンビニ容器包装の環境対応の変遷について解説する。プラスチック使用量の削減、バイオプラスチックの導入、リサイクル材料への転換、紙包装化、食品ロス削減のためのロングライフ化など具体的な事例を紹介する。

【4】 野田貴治講師（日本製紙） 10月25日14:35～15:20

「包装における紙素材の特徴と可能性」：

包装業界に限らずすべての産業界において、「持続可能性」「気候変動」「廃棄物問題」は、地球環境における普遍的な課題として挙げられる。持続可能資源である「紙」が、これらの課題解決に対してどのように貢献できるのか、製品開発やリサイクルに関する事例を紹介するとともに、今後取り組むべき課題について講演する。